

令和7年度教員長期研修

研修種目 道徳教育

経験学習サイクルに基づいた授業改善

ー 哲学対話の手法を用いた校内研修を通して ー



呉市立広南小学校
木下 真弥

※本資料中のイラストは、Microsoft Copilot（画像生成機能）で作成したものが含まれます。

研究のスタート

授業をもっとよくしたい!!

どうすれば授業改善を
組織的に進めることが
できるだろう？

目次

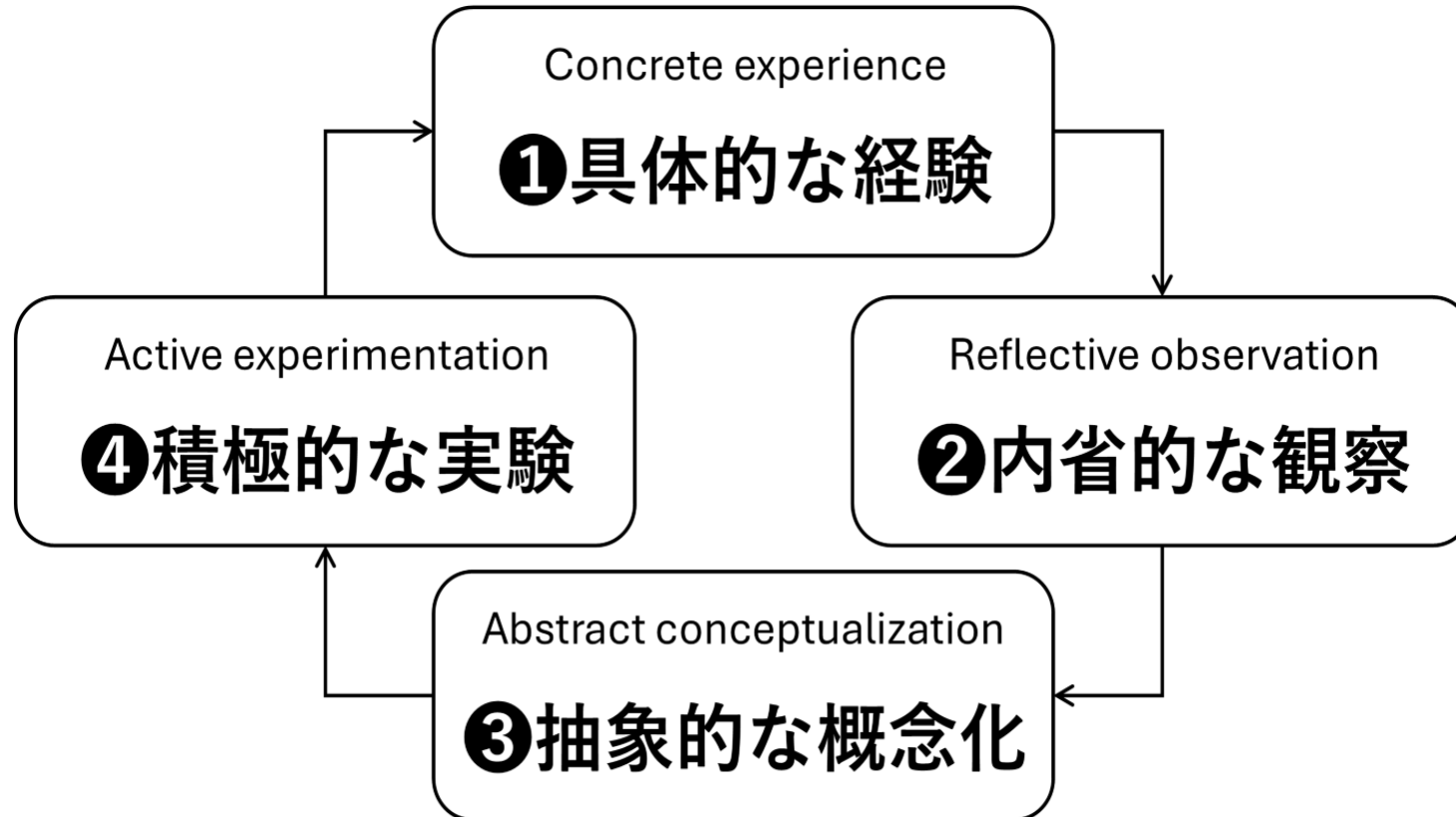


広南学園キャラクター
もくりん

- 1 研究の基本的な考え方
- 2 取組の実際と考察
- 3 研究のまとめ

◆デイヴィッド・コルブの経験学習サイクル

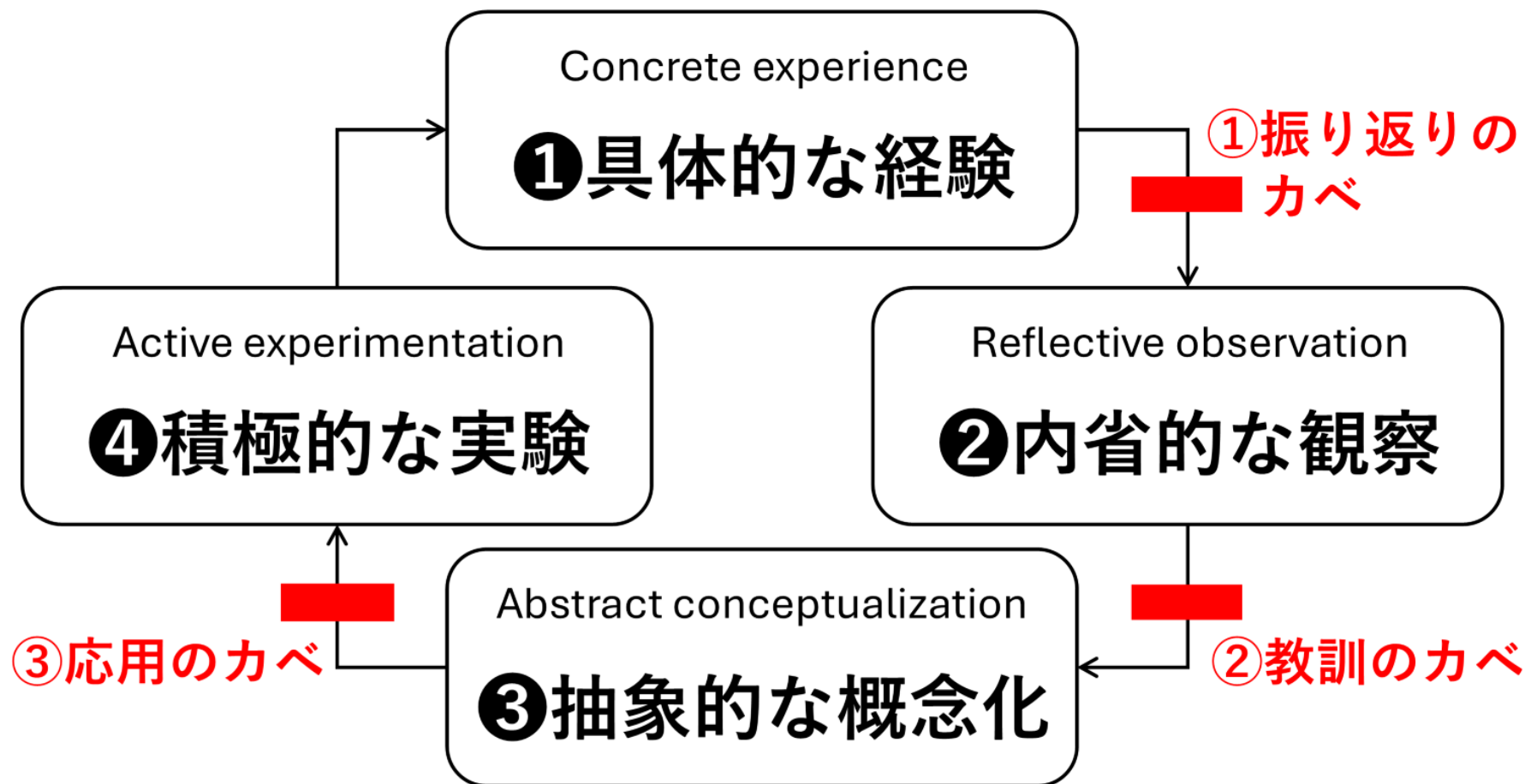
経験を通じて学びを深める四つのステップ



三つのカベが実施を阻む。

(参考・引用文献 b)

◆経験学習サイクルを阻む**三つのカベ**



(参考・引用文献 b、cを基に筆者作成)

三つのカベを乗り越えることができれば、サイクルは回る！

◆所属校の現状

研究主題

Society5.0を生きる資質・能力の育成

～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～

令和5・6年度

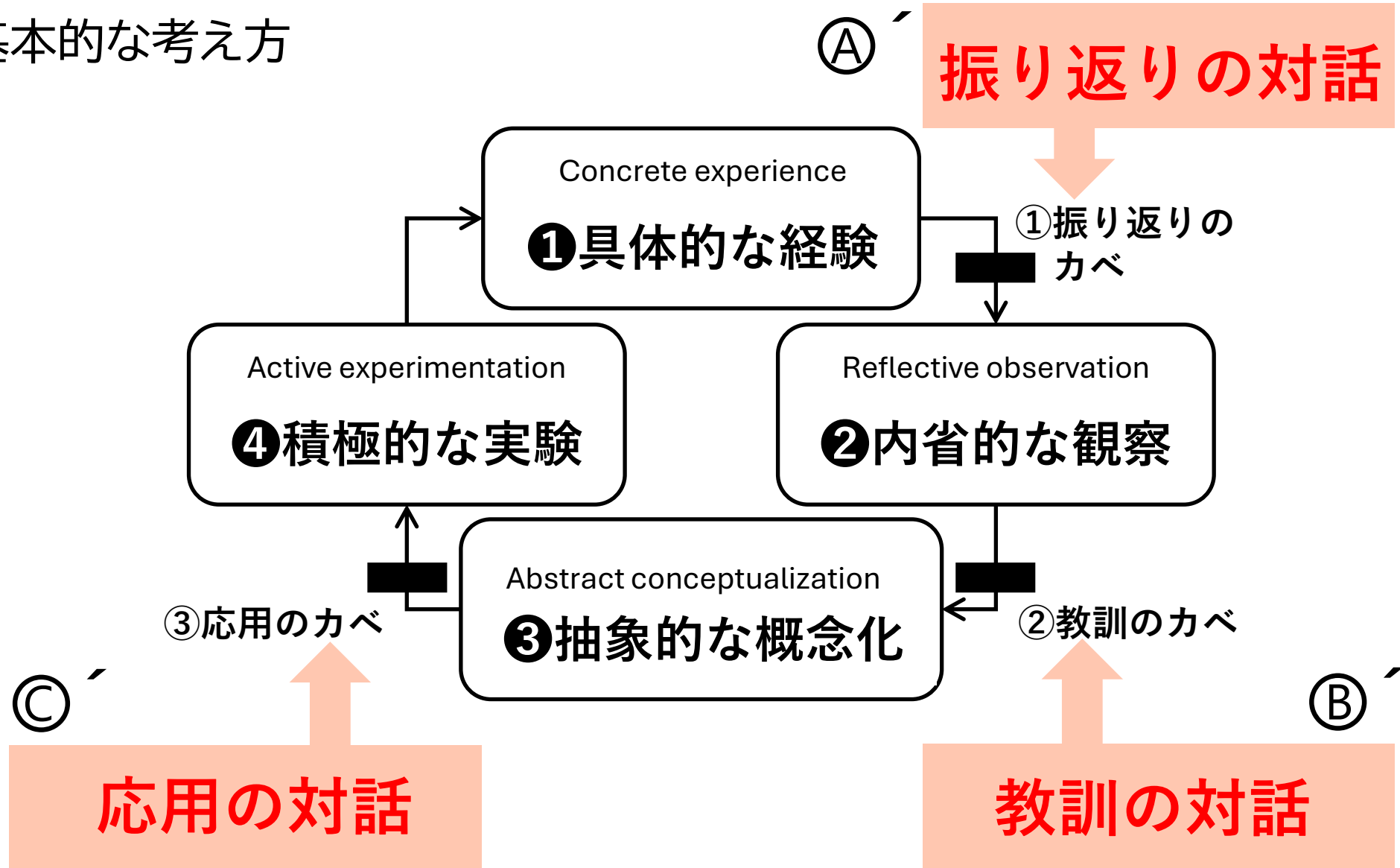
- 「令和5・6年度呉市小中で創る「未来の学び」実践事業」、「令和5・6年度広島県「道徳教育推進拠点地域業」の指定を受ける。
- 道徳専科の教員(道徳加配)が在籍していた。
- 道徳加配を中心とした授業改善を、組織的に推進してきた。

令和7年度

- 授業改善が、個々の教員に任されるようになった。
- 学年によって実態も教材も違うので、協議をしようという流れになることがあまりない。
- 令和5・6年度と比べて、職員室で授業づくりについて協議する姿が少なくなった。

組織的な授業改善の流れが弱まっている？

◆研究の基本的な考え方



教員相互の関わりで、三つのカベを乗り越えることができないか。

◆哲学対話

対話を通して哲学的に問い深めていく取組
共に考える学びの時間

代表的な手法(抜粋)

ア 輪になって座る	カ 物事を客観的、論理的、批判的に考える
イ 知的安全性・セーフティの担保 ・誰もが自由に 安心して発言できる場づくり ・ファシリテート役の設定	キ 抽象的な 概念 と具体的な 事例 を往還させる
	ク WRAITECの活用
	ケ Qワードの活用
ウ 対話のルール 作り ・何を話しても否定しない ・人の話をさえぎらない ・意見が変わっても、分からなくなってもよい	コ 問いワード の活用
	サ 答えを急がない
	シ 自他の考えが変わっていく ことを大切にする
エ コミュニティボールを回しながら対話	ス 自己評価 をして改善点を出し合う
オ 参加者が問いを決める	

◆哲学対話の手法を用いた校内研修のモデル

	経験学習サイクル	校内研修の流れ	哲学対話の手法(抜粋)
事前		・相互作用を生み出すためのグループ編成を行う。 ・ファシリテート役との打合せを行う。	イ 安心して発言できる場づくり ウ 対話のルール
校内研修	①具体的な経験	導入 ・本日の流れとねらい、時間設定について説明する。 ・テーマを共有する。 ・自分の授業や取組を振り返り、①具体的な経験を想起させる。	ウ 対話のルール
		展開1 振り返りの対話 ・グループで①について対話させ、②内省的な観察を促す。	ケ Qワード コ 問いワード
	②内省的な観察	展開2 教訓の対話 ・グループで②について対話させ、③抽象的な概念化を促す。	キ 概念と事例を往還させる カ 客観的、論理的、批判的に考える
	③抽象的な概念化	展開3 応用の対話 ・グループで③について対話させ、④積極的な実験に向けた目標を設定させる。	キ 概念と事例を往還させる シ 自他の考えが変わる
		まとめ ・気付いたことや感じたことを振り返らせ、次回の研修について説明する。	キ 概念と事例を往還させる シ 自他の考えが変わる ス 自己評価をする
事後	④積極的な実験	・展開3で設定したチャレンジ目標に取り組ませる。	

◆校内研修のイメージ

事前

- ・相互作用を生み出すグループ編成を行う。
イ 自由に安心して発言できる場
ウ 否定しないというルール
- ・ファシリテート役との打合せを行う。
対話を通じて学びを深める

事後

- ・チャレンジ目標に取り組ませる。

- ・チャレンジ目標を設定させる。

- キ 概念と事例を往還させる
- シ 自他の考えが変わる

Concrete experience

①具体的な経験
(日々の授業実践)

Active experimentation

④積極的な実験
(③で得た教訓を試す)

Abstract conceptualization

③抽象的な概念化
(こうすると授業がうまく展開できる等の教訓を得る)

Reflective observation

②内省的な観察
(日々の授業実践を振り返る)

校内研修

①

振り返りの対話

ケ Qワード
コ 問いワード

①振り返りの
カベ

③応用のカベ

④

応用の対話

②

②教訓のカベ

③

教訓の対話

キ 概念と事例を
往還させる
力 客観的、論理的、
批判的に
考える

仮説

哲学対話の手法を用いた校内研修によって、
教員の経験学習サイクルを循環させれば、
所属校の授業改善は推進されるだろう。

研究主題・副題

経験学習サイクルに基づいた授業改善
ー 哲学対話の手法を用いた校内研修を通して ー

目次

- 1 研究の基本的な考え方
- 2 取組の実際と考察
- 3 研究のまとめ



広南学園キャラクター
もくりん

振り返りの対話(例)

ケ Qワード
コ 問いワード

教諭 A : この間の授業では、目標を高く設定してしまったことで、達成につながらなかったし、本人のモチベーションを上げられなかった。個に応じた課題設定が必要だった。

教諭 B : 「目標が高すぎた」とは？

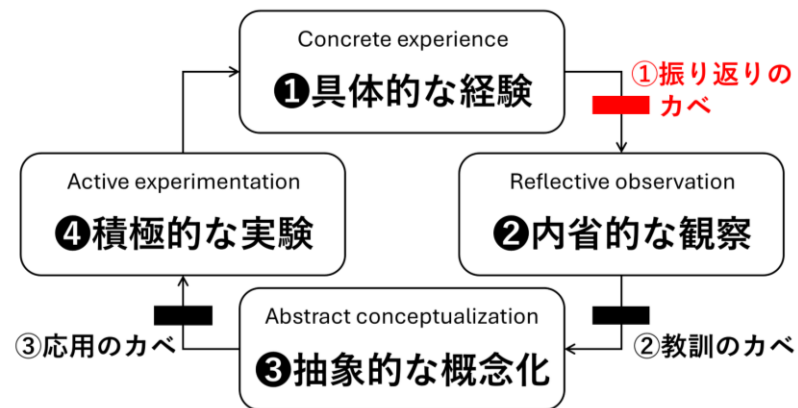
教諭 A : 数値目標にしたことで、数値をクリアしないと失敗と思わせてしまった。本人は頑張っていたのに…。スモールステップで進めていくと良かったのかも。

私の実態把握と課題設定が悪かったのかなと思う。

筆者 : そもそも、目標は児童が決めたの？

教諭 A : 児童が決めるのが難しかったので、確認はしながらですが、教師主導で進めていきました。

□ ファシリテート役



振り返りの対話を通して
日々の実践を多面的に振り返る。



①具体的な経験を基にした、
②内省的な観察が促される。

教訓の対話(例)

—— キ 概念と事例を往還させる
----- カ 客観的、論理的、批判的に考える

教諭C：私も、道德の授業をしながら、今日は児童全員が受け身だなと思うことがある。そんな時は、「～さんがああ言っているけど、どんな？」「今さっき似たようなこと言っていた人がいたけど誰だったかいね？」みたいな感じで児童の発言をつなぐと、少し受け身じゃなくなって、考えながら聞く姿が見られるようになってきた。

筆者：他の子の発言を聞いておかないとやばい！みたいな、聞く必然性を与える感じですかね。

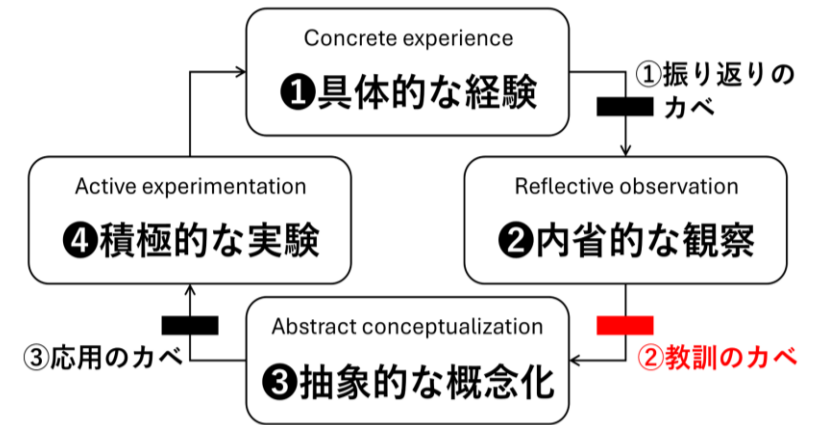
教諭C：そうそう。

教諭B：自分のクラスも聞く力が本当に課題。ただこの前の授業研で講師の先生が、「サークル対話で、先生がファシリテートしながら対話を進めるときには、板書は諦めなさい」と言われていたので試してみたいです。板書がないから友だちが何を言ったとか絶対忘れたりするだろうなと思ったんだけど、C先生みたいに、「～さんが言っていたけど、どう？」とかファシリテートすると、結構できたんですよ。最後の振り返りでも、児童は「最初は～と思っていたけど、〇〇さんのを聞いて～思った。」みたいな感じで振り返っていたから。板書がなくても、教師がつなぎながら対話させることで聞くことができるんだなと思った。

教諭C：確かに…。B先生の話聞いて、私は板書をしすぎて、聞かなくてもいい、別に聞いてなくても、先生がまとめたこと見ればいいのかと思わせる環境を作っていたのかなと思った。丁寧にやりすぎることが、聞く力を育てるわけじゃないってことですね。

教諭B：まあ、毎回板書をしないのがいい、じゃなくて、教材によって展開を変えていくと、子供も飽きないし、刺激があって聞く必然性も生まれやすいのかなと思う。

筆者：「話す、聞く」に焦点を当てたいなら、板書を手掛かりにさせないことも手だよってということですかね。



教訓の対話を通して、
内省的な観察が更に進み、
自身の教訓が生まれる。



②内省的な観察を基にした、
③抽象的な概念化が促される。

応用の対話(例)

—— キ 概念と事例を往還させる
----- シ 自他の考えが変わる

教諭 A : 2週間、聞く力を伸ばそうといういろいろ取り組んでみたけど、あまりうまくいかなかった。視覚支援を充実させた方がよかったのかなあ。

教諭 E : 視覚支援か…。(つぶやく)

教諭 C : 聞く力を伸ばしたいんだったら、児童に「メモに残したらどう」「どうしたら忘れないかな」みたいに聞いてみるのはどうかな。私は書いたら忘れないからメモに残すんだけど。

教諭 A : う～ん。うちの児童は書くことが少し苦手だから、嫌がるかもな。

教諭 E : うん、この学年でもそうだよね～。

教諭 B : まあ視覚優位、聴覚優位とか言うよね。

教諭 C : ワードを示すのもあるよね。「避難訓練」「逃げる」「図工室」みたいな。

教諭 E : キーワードでね。

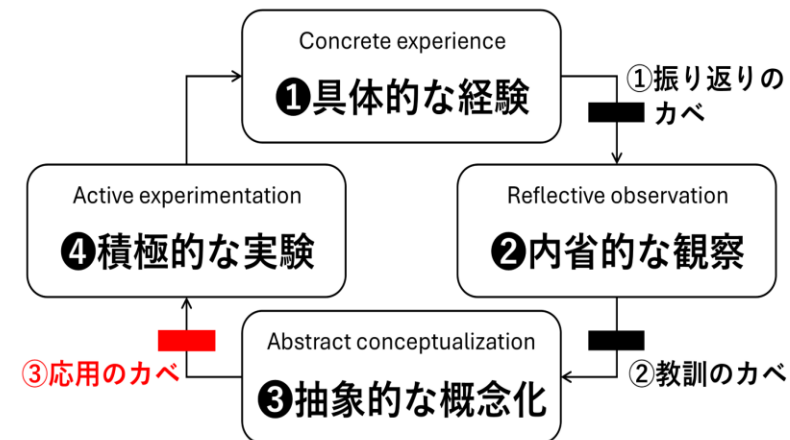
教諭 C : うん。図式化というか。可視化して。

教諭 E、B、C : あ～…、確かに、確かに。

教諭 A : 聞く力を育てない、ということではなくて、視覚支援を充実させる方がうちの児童にはよってことですかね。

教諭 B : うん。自分で判断するっていう点では、そちらを鍛える方がいいかもね。

教諭 E : 私も児童の聞く力を課題に感じる場面が多いんだけど、今日みんなの話を聞いていたら、授業で児童の聞く力を伸ばすためには、視覚的支援も大切だなと思いました。



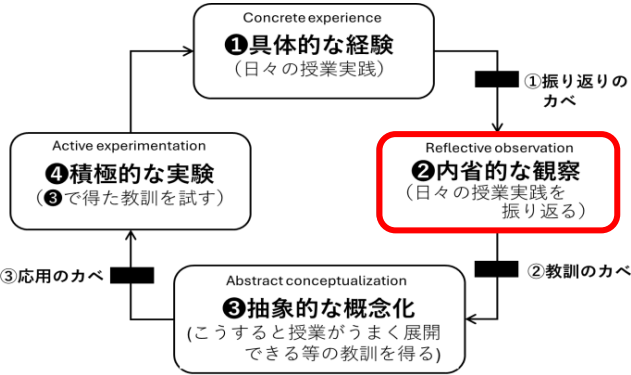
応用の対話を通して、
次の実践につなげる。



③抽象的な概念化を基に、
④積極的な実験に向かう。

◆アンケート結果①

新しい取組や挑戦について、実践後に、自分の行動や児童の様子等を振り返っていますか。(n=9)

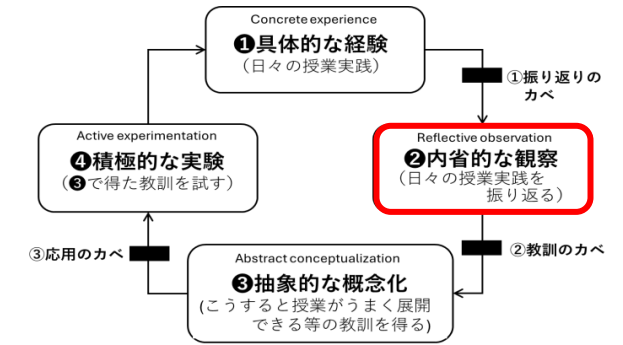


1全く思わない 2どちらかと言えばそう思わない 3どちらでもない 4どちらかと言えばそう思う 5そう思う

事後アンケート							
事前アンケート		1	2	3	4	5	計
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	1	1
	3	0	0	0	2	0	2
	4	0	0	0	1	4	5
	5	0	0	0	0	1	1
	計	0	0	0	3	6	9

◆自由記述①

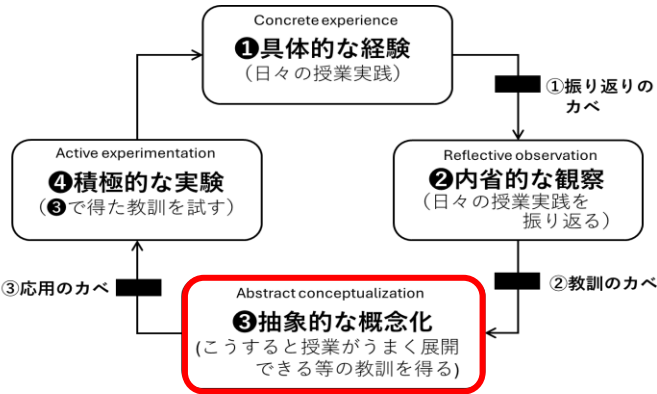
- ・自分の日々の姿を立ち止まって振り返るということはとても大切な機会だと感じた。そして、その中から、今の自分を一つでも変える努力は、次の日からでもできると感じた。
- ・聞く力は、育成を目指す大事な力だと知っていながらも、これまでは、姿勢や目線、相槌を打つなど、表面的な指導しかしてこなかったことに、他の先生との対話で気付くことができた。
- ・校内研修の中で対話をする中で、自分の授業の問題点を振り返るようになった。



②内省的な観察(日々の授業を振り返る)の
重要性に気付く。

◆アンケート結果②

振り返りを通して、成功の秘訣(ポイントや教訓)を整理していますか。(n=9)

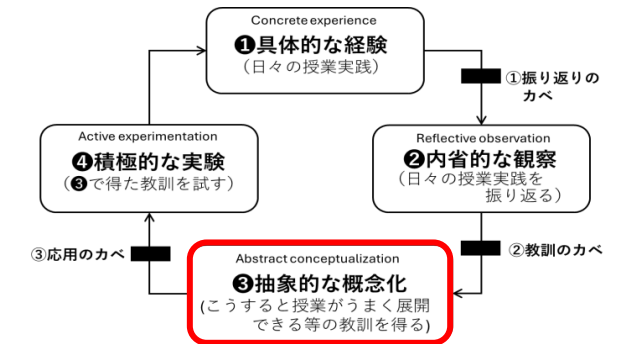


1全く思わない 2どちらかと言えばそう思わない 3どちらでもない 4どちらかと言えばそう思う 5そう思う

事後アンケート							
事前アンケート		1	2	3	4	5	計
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	2	2	4
	3	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	3	2	5
	5	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	5	4	9

◆自由記述②

- ・発達段階に応じて話し合う力を付けていくためには、
低学年での取組が大切。だけど、それを途切れさせることなく、
継続、発展させていくことはもっと大切だと感じた。
- ・児童の話し合いの様子を振り返ると、正解を求めている自分の姿が影響している
のではないかと考えることができた。



③抽象的な概念化(教訓を得る)が進む。

考察

哲学対話の手法を用いた校内研修は
教員相互の関わりによって、
経験学習サイクルを回す。

再考

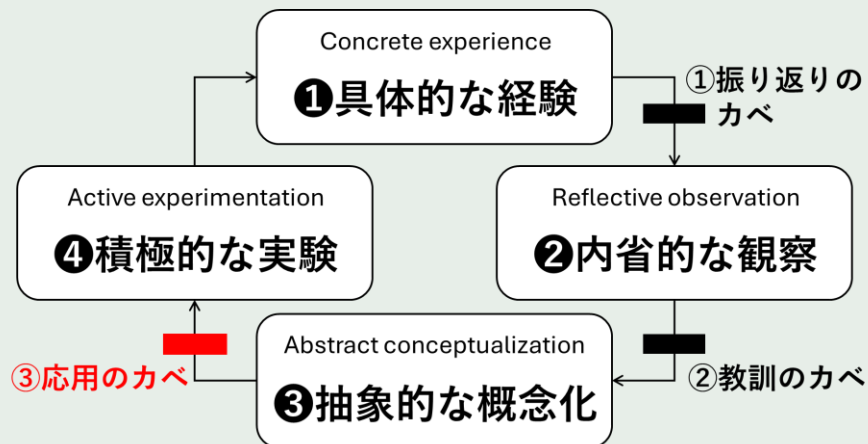
校内研修で得た学びを

授業改善につなげるためには

応用のカベを乗り越える

更なる工夫が

必要なのではないか



◆応用のカベを乗り越えるための更なる工夫

事前

- ・相互作用を生み出すグループ編成を行う。
- イ 自由に安心して発言できる場
- ウ 否定しないというルール
- ・ファシリテート役との打合せを行う。
- 対話を通じて学びを深める

Concrete experience

①具体的な経験 (日々の授業実践)

校内研修

A

振り返りの対話

ケ Qワード
コ 問いワード

① 振り返りのカベ

Reflective observation

②内省的な観察

(日々の授業実践を振り返る)

②教訓のカベ

ⓑ

教訓の対話

キ 概念と事例を
往還させる
力 客観的、論理
的、批判的に
考える

Abstract conceptualization

③抽象的な概念化

(こうすると授業がうまく展開できる等の教訓を得る)

応用の対話

©

- ・**チャレンジ目標**を設定させる。

キ 概念と事例を往還
させる

シ 自他の考えが変わる

Active experimentation

④積極的な実験

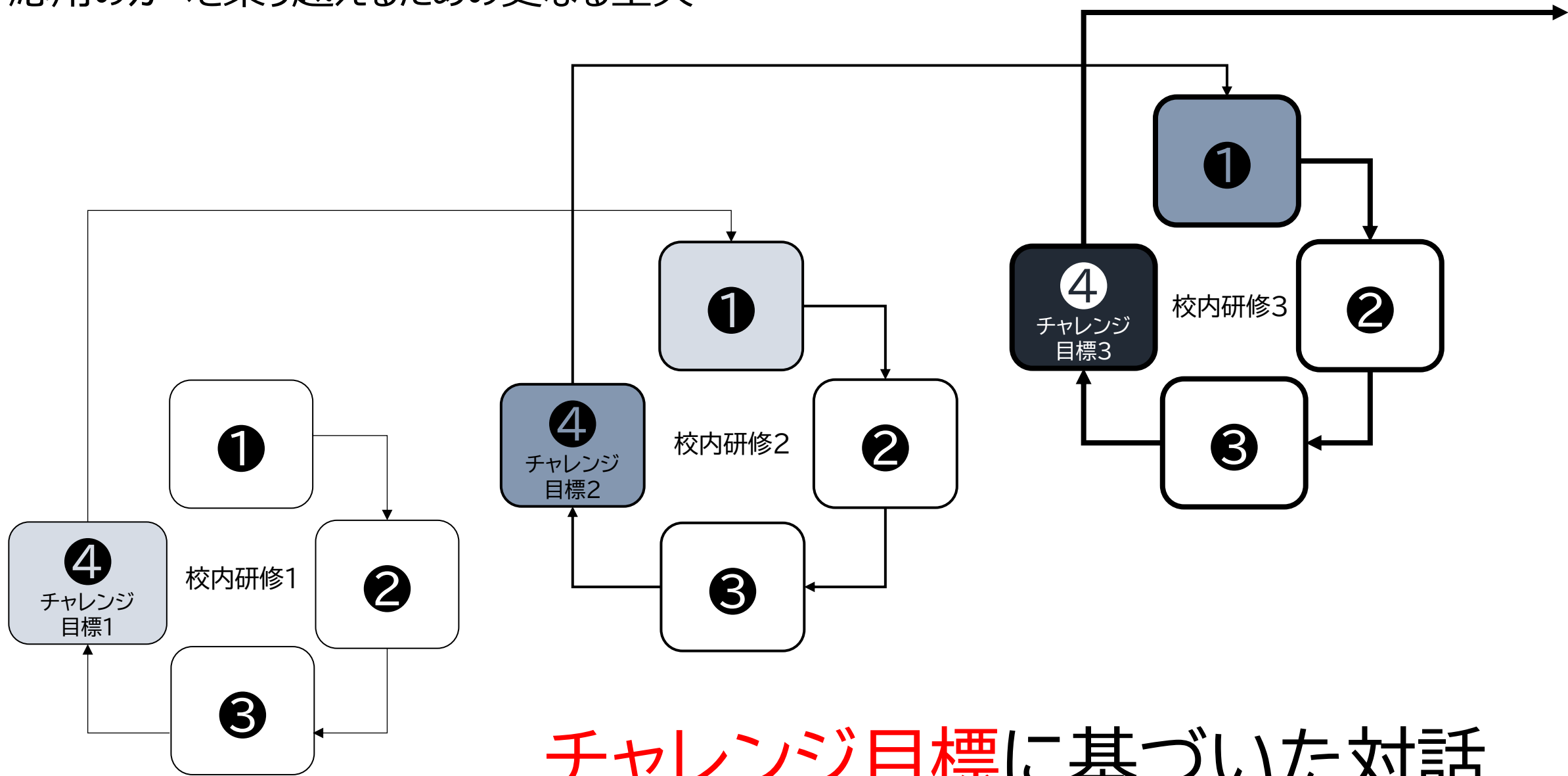
(③で得た教訓を試す)

③応用のカベ

事後

- ・チャレンジ目標に取り組ませる。

◆応用のカベを乗り越えるための更なる工夫



チャレンジ目標に基づいた対話

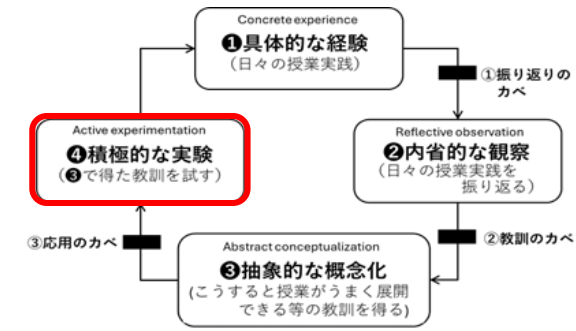
◆教諭Dのチャレンジ目標の変容

チャレンジ 目標1	授業では、児童の聞く力を付けるために、「～さんが〇〇って言っていたけど、～さんはどんなことを思った？」等と、(教師が)児童の発言をつないで聞く必然性をもたせるようにしていきます。
チャレンジ 目標2	前回のものは継続して行う。 加えて、「～さんと似ていて～」、「～さんはこう言ったけど、」等、児童が主体的に聞きながら、児童同士が発言をつないでいけるように頑張ります。
チャレンジ 目標3	子供が「話し合いたい！」と思える場を授業に作ります。そして、児童の話し合いに入りすぎず見守ることで、考え・議論する姿を目指します。



◆自由記述③

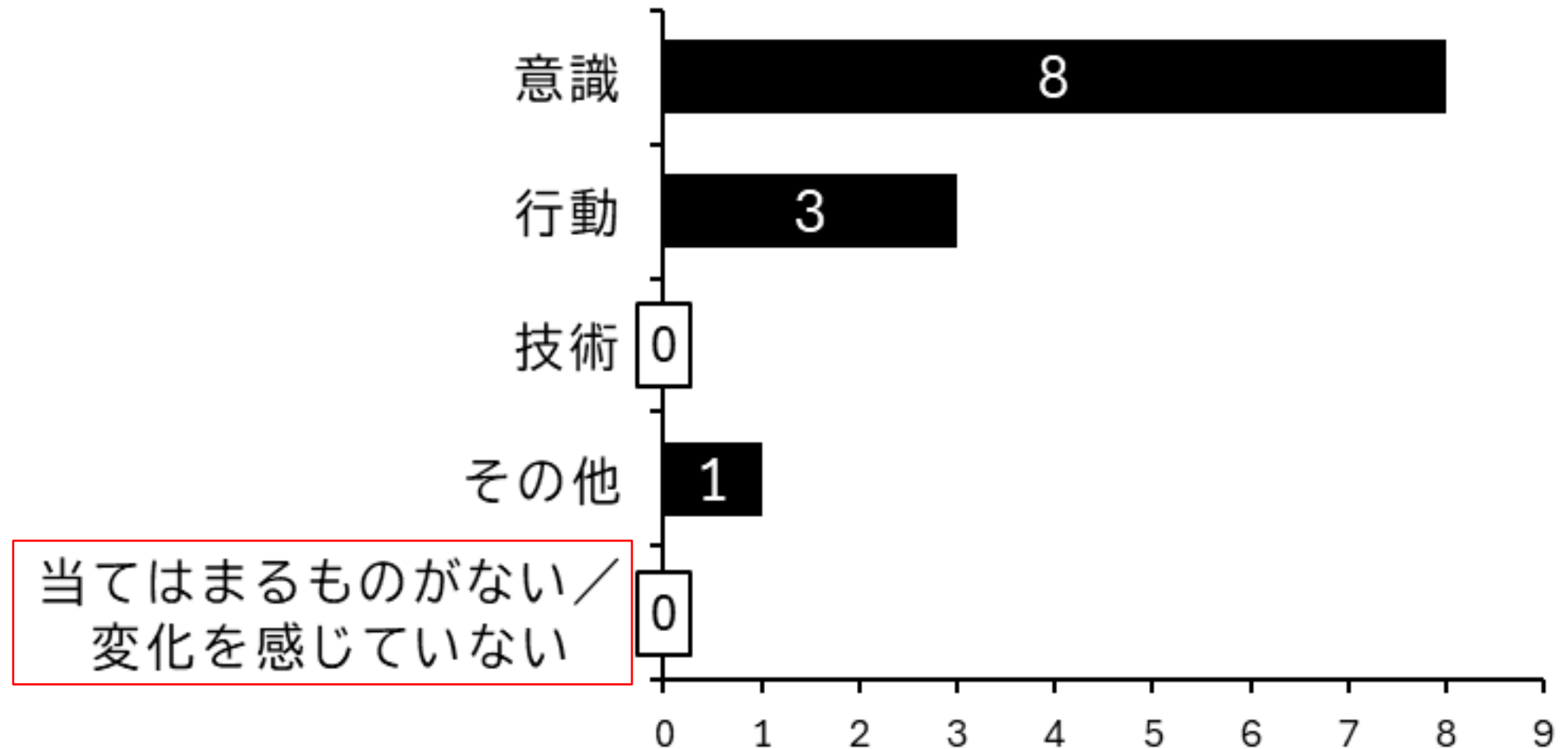
- ・常に**目標があること**で、授業づくり時に**意識して話合いの場を設定することができた**。今回の研修がなければ、何となく今年度が終わって、来年度も何となくスタートさせていたと思うので、目標をもつ機会はありがたかった。
- ・日ごろなかなか、他学年の実践や先生方の取組、指導の工夫についてじっくり話すことがないので、ミニ研修という機会はありがたかった。対話だけでなく、**チャレンジ目標として可視化したことにより、自分の意識を高めることができた**。
- ・自分の授業や関わり方を振り返るきっかけにもなったし、明日はここを意識してやってみようと**やってみることが増えた**。
- ・日々業務を淡々とこなしていると、自分の授業を高めたり、改善させたりする機会がないので、**目標設定をして意識をしながら授業するだけでも授業が変わってくる**と思った。



チャレンジ目標に基づいた対話
経験学習サイクルを**循環** → **意識**や**行動**の変化

◆アンケート結果③

校内研修1～3を通して、ご自身の変化を感じていますか。
当てはまるもの全てを選んでください。(n=9 複数回答)



校内研修をする前は、他の先生と授業の話をしようと思うこともなかったけど、
自分の経験や知識のアップデートのためにアウトプットして、その自分の
意見を批評してくれる他者の存在が重要であると感じた。

教員相互の関わりを生かした校内研修が
組織的な授業改善の一步に

考察

対話を通して、応用のカベを乗り越える校内
研修を繰り返し設定することで、経験学習サイ
クルが循環しやすくなり、教員の**授業改善**が
進む。

目次

- 1 研究の基本的な考え方
- 2 取組の実際と考察
- 3 研究のまとめ



広南学園キャラクター
もくりん

結論

哲学対話の手法を用いた校内研修は、
教員の経験学習サイクルを循環させ、
所属校の授業改善を推進する。

本研究を終えて



私は、教員の授業改善をテーマに本研究を行いました。

本研究を通して、多様な経験や立場をもっている教員が本音で対話をする姿、「こんな児童を育てたい」と熱く語る姿、また、相互に関わり合って、授業改善に取り組む姿を見ることができたことは何より嬉しいことでした。

「学び続ける教員」には、教員相互の関わりが不可欠だと確信できたことが私の大きな学びです。

今後も引き続き対話を大切に、「教員相互の関わり」をキーワードに取り組んでまいります。

本研究にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

参考・引用文献

- a デイヴィッド・コルブ著、中野眞由美訳（2018）
「最強の経験学習（電子書籍版）」辰巳出版
- b 松尾睦（2019）
「部下の強みを引き出す経験学習リーダーシップ」ダイヤモンド社
- c 松尾睦（2006）
「経験からの学習 プロフェッショナルへの成長プロセス」同文舘出版
- d 東京都教職員研修センター（令和7年3月）
「校内研修ガイドブック【一部改訂】」「研修の形態と時間設定」
- e 茨城県教育研修センター（2022）
「校内研修の手引き ワークショップ型研修の進め方」「校内研修を進めるにあたって」
- f 豊田光世（2020）
「p 4 c の授業デザイン共に考える探究と対話の時間の作り方」明治図書出版
- g 河野哲也（2020）
「ゼロからはじめる哲学対話 哲学プラクティス・ハンドブック」ひつじ書房
- h 高宮正貴（2023）
「哲学対話の道徳授業を行うには」杉本遼・町田晃大・藤井基貴・高宮正貴編著「道徳科授業サポート
BOOKS子どもの問いではじめる！哲学対話の道徳授業」明治図書出版
- i 杉本遼（2023）
「子供同士で対話を行うポイント」杉本遼・町田晃大・藤井基貴・高宮正貴編著「道徳科授業サポート
BOOKS子どもの問いではじめる！哲学対話の道徳授業」明治図書出版
- j 木下真弥（2025）
「道徳的諸価値に多面的・多角的に向き合うことができる道徳科学習指導の工夫―哲学対話を取り入れた授業モデルの構築を通して―」
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/641436.pdf>